

水俣病 研究阻むナワ張り争い

鰐淵氏ら不満もらす

「有機水銀」すでに実証段階

厚生省の諮問機関として水俣病の原因を究明していた食品衛生調査会の水俣病食中毒部会は、さる十二日「原因はある種の有機水銀化合物である」との答申を出して解散したが、同部会の委員長鰐淵龍雄熊本大学長や委員の世良同大医学部長、喜多村、内田岡岡学部長らは、十二日、県庁で記者団と会見、解散の事情や今後の問題等について「有機水銀が魚貝類の体内で有機水銀になる過程は、すでに科学的実証の段階にあり、近い将来に結論が出るだろう」と研究の重大段階で関係各省のナワ張り争いから水俣食中毒部会が解散させられたのは残念であるなどの諸点を明らかにしてつぎのように語った。

○十二日の一月に水俣食中毒部会が発足したとき、われわれは海中の泥土の検査、分析や海流の調査なども研究範囲に入ると思っていたが、さきの食品衛生調査会常任委員会で厚生省の仕事は病気の原因と治療に限定されることになり、原因を有機水銀と結論づけて部会は解散させられた。つまり、魚貝類や漁業権の問題は水産庁で、新日窒水俣工場と有機水銀の関係は通産省の仕事だというわけ。部会としてはまだやるべき仕事が残っていたのに、このような各省のナワ張り争いで部会が解散させられたのを残念に思う。

○われわれが工場と水銀の関連性を調査するには通産省の協力と工場の全面的開放がなくてはわれぬが、この道はとぎやれている。新日窒水俣工場と同じく塩化二

ルや酢酸をつくる他の二十二工場について排水状況などの資料提出を通産省に要望しても、同省は極端事項だとして出さない。われわれはデータがなくては研究できな。また新日窒水俣工場でも廃水すら自由に採取させてくれぬ。これでは良心的研究もできず部会の存続も無意味だったかもしれない。

○有機水銀が魚貝類の体内で有機化するプロセスは水産庁が究明に乗り出すそうだが、われわれも研究をつづけている。すでに科学的実証の段階にあり、水産庁よりも早く結論が出るかもしれない。しかし、水俣食中毒部会の解散で厚生省からの研究費(三十四年度は百万円)は来年度は打ち切られるだろう。また文部省の科学研究班として文部省からもらっていた研究費(毎年八十万円)も来年度も出ている。来るかどうか不明だし、財政的に苦しい研究になるだろう。このため日本医師会、県医師会のなかには資金助成をしようとの意見(したも)は食品衛生調査会でも

敗戦された。国立大学の教授が会社側に足を突っ込んだ形で発言するのは好ましくない。
○さきに熊本大学が中心になつて争闘を断つた水俣市内の脳性小児マヒ患者十四人は、小児マヒと水俣病の症状が似ているのではつきりはいぬが、うち数人は水俣病かもしれない。